

経営学部

令和7年度 専門高校、専門学科・総合学科等を対象とする推薦入学試験

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科	志願者数	受験者数	合格者数
経営	77	74	40
商	6	6	0
会計	25	23	7
キャリア・マネジメント	1	1	1
合計	109	104	48

(2) 本入学試験の目的

本学では、多様な入学試験制度を導入し、受験生に対して幅広く受験の機会を提供しています。そのうちの「専門高校、専門学科・総合学科等を対象とする推薦入学試験」は、専門高校、専門学科、総合学科で学んでいる者またはそれに準ずる者を対象に、特別な選抜方法により入学試験を実施することで、専門的な知識を有する多様な学生を受け入れ、本学部の活性化を図るために実施する制度です。

2. 試験内容・出題の意図

(1) 書類審査

調査書、検定試験合格証書写し、推薦書で出願資格を充足するかを確認したうえで、志望理由書により、本学部への入学意欲や将来のキャリアの見通しや目標について、しっかり自分の意見が述べられているかを確認しました。

(2) 小論文 ※経営学科・商学科・キャリア・マネジメント学科対象

問1と問2を合わせて解答時間60分、それぞれ500文字ずつ、合計1000字の解答を記述するように設問しました。

問1は、中小企業（建設業）の人手不足とその対策に関する記事（日本経済新聞）と、経済産業省（2024）「少子化対策に資する地域の包摂的成長について」第20回産業構造審議会 経済産業政策新機軸部会資料から人手不足あり、なしの中小企業の取り組み調査データを用いて、実態と対策に関する問いへの記述解答を求めました。問1、設問1-①は、中小企業（建設業）の人手不足とその対策に関する記事（資料Ⅰ）を読み解き、人手不足対策と効果を150字以内で説明することを求めました。人手不足対策と効果について記述された箇所をポイントを押さえて抜き出しながら説明できるかを確認しました。問1、設問1-②では、人手不足の中小企業の要因（資料Ⅱ）、人手不足ではない中小企業の要因（資料Ⅲ）のそれぞれのグラフから読み取れることを、100字以内でポイントを押さえ簡潔に説明できるかを確認しました。問1、設問1-③では、資料Ⅰの記事内容、Ⅱ、Ⅲのグラフデータをもとに、人手不足あり、なし中小企業の認識と取り組みを比較すること、

とくに従業員の側が何を求め、どのような内容に満足しているかを推測しながら、人手不足を解消するための対応策を提示できるかを確認しました。

問2は、国税庁の「令和5年 民間給与実態統計調査」による業種別平均年収と、オータパブリケーションズ『月刊ホテルズ（ホテル&レストラン）』における「ホテルエの賃金実態調査 2024」（回答者数157名）から、日本のホテル産業における労働実態に関する問いへの記述解答を求めました。問2-①は、図1から読み取れる内容を正確に記述することが求められました。問2-②は、図2～5をもとに設問の内容に沿って考察し、その問題点について正しく理解し記述することで、問題点を指摘できるかが求められました。問2-③は、図6をもとに設問の内容を踏まえつつ、受験生自身の意見を論理的に論述・展開することが求められました。

(3) 学科試験 ※会計学科対象

簿記・会計に関する計算（仕訳問題と財務諸表作成問題）と記述問題（用語穴埋め問題）を出題しました。

第1問：会計に関する記述問題として、小問10問の文章中15箇所の用語穴埋め問題を出題しました。財務会計の機能、企業会計原則および貸借対照表の表示や個別論点についての問題を出題しており、財務会計の総論から各論にわたって基本的な理解と記述について問われました。

第2問：小問10問の仕訳問題を出題しました。やや細かい論点も出題されたものの、いずれも商業高校の教科書に掲載されている水準の仕訳について問われました。

第3問：決算前残高試算表と決算整理事項をもとに損益計算書と貸借対照表を作成する問題を出題しました。問題文中の7つの決算整理事項はいずれも基本的な会計処理であり、一部に科目の記入欄がありましたがほとんどが金額を記入する問題で、正確な計算力と集計力を問われました。

(4) 口頭試問

小論文・学科試験に加えて、約10分間の口頭試問を行いました。口頭試問では、2名の面接担当教員が2名の受験生に対して、事前に提出された志望理由書などにより、本学部への入学意欲やアドミッション・ポリシーに叶う者かどうかを確認しています。

3. 評価のポイント

(1) 小論文 ※経営学科・商学科・キャリア・マネジメント学科対象

問1、設問1-①は、記事（資料Ⅰ）の内容のポイントを押さえて読み解き、150字以内の限られた字数で表現できるかを評価しました。問1、設問1-②では、資料Ⅱ、資料Ⅲのそれぞれのグラフについて、比率の多少の他、同じような回答比率の選択肢群の特徴や共通点などに言及するなど、踏み込んだ着眼点があり、100字以内でポイントを押さえ簡潔に説明できるかを評価しました。問1、設問1-③では、全体を総合して、とくに従業員の側が何を求め、どのような内容に満足しているかを推測しながら、人手不足を解消するための対応策を提示できているかを評価しました。

問2では、3つの設問のうち、問2-①と問2-②では設問の文章や図表を正確に読み取ることができていること、指定された文字数の中で重要なポイントを押さえ、簡潔に要約・表現できていることが評価のポイントでした。最後の問2-③では、図と設問の内容を踏まえて受験生自身の意見を展開することが求められており、自らの考えを論理的に表現し、現実性・実現性のある解決策を提示できているかどうかを審査しました。

(2) 学科試験 ※会計学科対象

記述問題では、基礎的な財務会計の理論や会計基準等に関する理解と会計用語の正確な記述が、仕訳問題では計算力も含む会計処理能力が求められました。記述問題と仕訳問題では、多くの小問を読んで解答する必要があったため、試験時間内に素早く問題分を読解できるかが評価のポイントとなりました。また、財務諸表作成問題では、基本的な決算整理事項を処理できるか否かに加えて、決算整理前残高試算表に決算整理事項を正確性に集計できたかに否かによって評価点数に差が生じました。

(3) 口頭試問

口頭試問での評価の主なポイントは以下のとおりでした。

- ・自分の言葉でしっかり説明できているかどうか。
- ・なぜ本学部を目指そうとしたのか、それが自身の学習とどのように関連するのかどうか。
- ・入学後、何をどのように学びたいのか、学業の目標を示すことができているかどうか。
- ・自身のキャリアプランを明確に持っているかどうか。
- ・自身の強みをしっかりアピールできるかどうか。

4. 解答状況

(1) 小論文 ※経営学科・商学科・キャリア・マネジメント学科対象

小論文試験の問1では、設問1-①の記事の要約について、150字以内にポイントをまとめられるかで、解答にばらつきがみられました。設問1-②については、グラフのどこに着目するかで、解答者の視点に差がみられましたが、比率の多少の他、同じような回答比率の選択肢群の特徴や共通点などに言及するなど、踏み込んだ着眼点があればより望ましいと評価できます。設問1-③は総合的な分析を求める問いのため、資料からかけ離れた考えを求めるものではないため、設問1-②でグラフから読み解いた内容に言及しない考えは適切であると判断できません。設問1-①での記事内容要約を含めて資料全体をバランスよく取り込みながら、そこから論理的に導出される内容であればより望ましいと評価できます。

小論文試験の問2では、図表を正しく読み取る問題の問2-①や問2-②は多くの受験者がある程度の正答に達していましたが、受験者自身の考えを問う問2-③では、時間不足による文字数の不足や解答を途中で断念したものが多く発生していました。これは、問1と問2を合わせて60分という解答時間が指定されていたために、多くの受験者が問1から順に解答を始め、問2では時間不足になったのではないかと推測しています。問2では、この問2-③で最後まできちんと解答し自らの意見が論理的に記述できているかどうかで評価に差が生じました。

解答時間の配分を考え、字数の不足なく最後まで解答を終えられるように注意してください。

(2) 学科試験 ※会計学科対象

第1問（記述問題）と第2問（仕訳問題）の正答率がやや低く、第3問（財務諸表作成問題）は比較的正確率が高かったです。記述問題では、漢字表記も含めて専門用語としての会計用語が正確に書けていなければ減点となります。また、仕訳問題では、正しい勘定科目の表記に加えて計算数値も正しくないと正解にはなりません。財務諸表作成問題では、会計処理過程での計算だけでなく財務諸表に金額を集計する能力も必要となり、試験時間内に集計できるかによって評価に差が生じました。

5. 次年度の受験生へのアドバイス

令和8年度入試から「専門高校、専門学科・総合学科等を対象とする推薦入学試験」は、総合型選抜に統合することになっています。

目的や出願条件等に大きな変更はありませんが、まずは専門高校等で学んだ成果を表現するため、出願条件となっている9資格を少しでも多く取得できるよう、専門知識の強化を進めていただきたいと思います。また、入学後に、それらの知識をより活かすためには、国語や数学などの基礎学力も重要となります。各学校で学ぶ内容を理解し、かつ、身近な人で構いませんので、コミュニケーション力を高めるよう心掛けてください。それでは、以下に各試験に関するアドバイスを記載します。

小論文については、専門知識を問うような出題は見込んでいませんが、文章を読んで、自分なりに要約する力、そしてそれを踏まえて、自分の意見をしっかりアウトプットできる力を養っていただきたいと考えています。この力は、入学後も必ず必要になるものですので、トレーニングを積んでいただくことを期待します。

会計学科の学科試験については、商業高校で使用する教科書を基準に幅広く知識を問う問題を出題していますので、会計学、簿記の基礎知識を確実に修得することが点数アップにつながります。

口頭試問については、覚えた内容を棒読みするのはなく、自分の言葉で、なぜ近畿大学で経営学部なのか、将来の目標のためにどう進んでいきたいのか、これらを自分の中で組み立てて、そこから派生するであろう質問を想像しながら準備していただくことが良いだろうと思います。